

自らの命は自らで守る。そして…

みんなの地域はみんなまで守る！

災害が発生したときはもちろん、日ごろからも地域の皆さんと一緒に防災活動に取り組む組織、それが「自主防災会」です。



被害を最小限に抑えるために

地震により同時多発的に火災が発生した場合、常備消防力では対応しきれません。被害を最小限に抑えるためには、自主防災会の活動が必要不可欠となります。



災害時に役立つ人と人とのつながり

隣近所の住民同士が知り合っていれば、災害発生時の行動もスムーズに。自主防災会の活動の場などでもコミュニティの輪を広げておくことが重要です。

いつ発生してもおかしくないとされている東海地震や東南海地震。このような大地震や災害から自分や家族の命を守るため、皆さんも日ごろから十分な備えをしていることと思います。しかし、ひとたび災害が発生すると、個人や家族で出来ることには限界があり、危険や困難を伴う場合があります。このようなときこそ、毎日顔を合わせている隣近所の人たちが集まり、お互いに協力しながら救出・救助活動に取り組むことが必要になってきます。

自主防災会とは、
災害からみんなを守る人たちの
「まとまった力」

自然災害から命や財産、わが家、わがまちを守るための、地域の人々のまとまった力。これが自主防災会です。このまとまった力は、地域の人々の協力でつくられるものです。

自分たちのまちは
「自分たちで守る！」

自分たちのまちは自分たちで守るということが災害時の基本的な考え方です。阪神・淡路大震災のときにわかったように、大きな火災が同時多発的に発生すると、消防署と消防団の常備消防力だけでは対応しきれなかったり、行